

緊急時に想定される課題の抽出について

地域生活支援拠点（以下「拠点」と言う）等の整備は、障がい当事者が、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、「もしも」の時に備える地域の体制構築を目指している。区では、緊急時に対応する拠点等の機能として、以下の項目の整備を進めている。緊急時に想定される課題や必要な支援策について、障がい当事者部会員から意見をいただき、拠点機能の充実に繋げる。また、緊急時に活用できる社会資源を整理し、フローチャート等の可視化を目指す。

1 拠点等における緊急時の定義

介護者と同居している障がい者が、介護者等の事故、死亡などにより、介護・支援が受けられない状態となり、生活が保てなくなる事態のことを言う。

※介護者等が不在になることでの緊急時を想定している。

※災害等による緊急時における対応については個別避難計画によるところとする。

2 現在整備している区の支援体制

（1）安心支援プラン

計画相談支援事業所の利用者に対し、計画相談員が緊急時の対応や連絡先をシート（安心支援プランの様式）にまとめておくことで、いざというときに関係者が円滑に対応できるように備えておくための計画である。計画相談支援事業所を利用していないが、安心支援プランの作成を希望する者は、本人の意向をもとに、基幹相談支援センターが安心支援プランの作成を援助することも可能である。

（2）短期入所の充実

赤塚ホームの拠点等登録を検討し、緊急時に優先的に利用できるよう体制を整備する。

3 その他必要と想定される支援体制（当日議論）

介護者が不在となった場合、上記2点以外で必要と思われる支援体制について検討する。